

市内の戦跡を歩こう2



⑦ アバタガマ



真栄平集落の後方、耕地整理の進んだ丘陵の中腹にある自然洞穴。壕の出入口のある敷地内には、真栄平区民による慰霊塔「南北之塔」をはじめ「捜索24連隊慰霊之碑」等が建立されている。

十・十空襲では住民の多くがこの壕に避難。翌年の3月に米軍の攻撃が始まると、再び多くの住民がこの壕を避難壕として利用。5月末ごろ、「ここは戦場になるから安全な所に行きなさい」「ここは首里から来る兵隊が入るから」と日本軍から壕を出ることを求められる。住民らは壕にいられるように頼むが、聞き入れられず壕から追い出された。

県道54号線沿いの真栄平バス停留所近くの玉城商店より集落の後方へ約500m。近くに真栄平野菜生産組合のビニールハウスがある。

⑧ 与座第24師団 トーチカ跡



与座の上座原地内の丘陵頂上部の雑木林の中、拝所ウィーザストウンの奥にトーチカ跡がある。太い鉄筋を何本も配列したコンクリート製のトーチカの内側は、縦約2.7m、横4m、高さ1.5m。現在、天井部分はない。トーチカの東側10m程先には陣地壕の出入口がある。壕の内側は途中で落盤している。壕とトーチカの間にはこの2つを繋ぐ溝が掘られている。

上座集落より東南約300m。与座浄水場より大里向け、2つ目のカーブミラーを東へ約300m。道路沿い左側にウィーザストウンに向かうコンクリートの階段がある。

【注意】ここで紹介した場所には危険な箇所もあります。見学をする時には安全に十分留意してください。

⑤ サキアブ (陸軍病院本部壕)



山城集落東側、ガジュマルやモクマオウ等の木立の中に「沖縄陸軍病院之塔」が建つ。サキアブはその敷地内にある自然洞穴。山城住民が避難。

5月下旬、南風原にあった沖縄陸軍病院が南部に移動。病院本部の勤務者が、この壕へ移動して傷病兵の治療にあたったことから、陸軍病院本部壕とも呼ばれる。6月18日壕入口付近に直撃弾を受け、病院長、衛生兵、学徒らが戦死。病院は解散となり、看護婦や学徒らが壕から脱出した。

国道331号沿いの琉球楽器の近くに所在を示す道標あり。道標に従い南へ約600m。

⑥ クラガー



宇江城集落の西側、モクマオウの木立の中に慰霊碑「山雨の塔」が建つ。その下に自然洞穴のクラガーの出入口がある。壕の出入口付近から水が湧き出ている。元々住民が水汲み場として利用していたこの壕を、第24師団が陣地として利用。首里陥落後は、第24師団司令部が移動して来ており、宇江城一帯は日本軍最後の抵抗拠点の一つとなる。1945年6月28日、壕入口を米軍が爆破。30日、師団長の雨宮中将がこの壕で自決。軍旗の奉焼も行われた。

県道54号線沿い真栄平スターから南へ約500m。宇江城集落内の宇江城バス停留所から南に約100m。

③ ウッカーガマと ウンジャー



宇伊敷にある全長約200mの自然洞穴。洞穴内を地下水が流れる。この洞穴には出入口が2か所あり、南側をウッカーガマ、北側をウンジャーという。

1944年の十・十空襲の時には、糸洲住民の多くがウンジャーガマに避難。翌年3月の米軍による攻撃開始以降は、糸洲住民はウッカーガマやウンジャーガマに避難した。やがて、ウンジャーガマに避難していた住民は、日本軍に壕を追い出される。5月末には第24師団の第2野戦病院がこの壕に撤退してきた。この野戦病院には積徳高等女学校の生徒も配属されていた。6月17日以降、米軍のガス攻撃を受け、26日に学徒隊は解散され、翌日に部隊長は自決した。

国道331号(バイパス)沿いにウッカーガマを示す「山第二野戦病院小池隊最期の地 80メートル先」の標識あり。ウッカーガマの入口には四角錐の慰霊碑「鎮魂之碑」が建つ。

④ 伊原第一外科壕



伊原の東南にある自然洞穴。南部撤退後の沖縄陸軍病院関係者やひめゆり学徒らが利用した避難壕で、壕の出入口近くに「第一外科壕跡」の碑が立つ。主に糸数分室、津嘉山経理部、第一外科の勤務者が入っていたことから、第一外科壕といわれる。

6月17日、壕の出入口に砲弾が直撃し、学徒や病院関係者が死傷。その翌日、学徒らに解散命令が出される。

国道331号沿いに所在を示す道標が立つ。道標に従い南へ約100m。

② ウマウトゥシー (防疫給水部隊壕)



東辺名集落の南側の雑木林の中にある縦穴の自然洞穴。開口部近くに、「第27野戦防疫給水部隊本部終焉之地」の碑がひっそりと建つ。

この壕は第27野戦防疫給水部隊が使用していたとされ、壕内には軍靴等が散乱する。部隊は5月18日に東辺名に集結。この部隊の本来の任務は、伝染病対策と水の確保で、部隊の幹部は軍医であった。沖縄戦が始まると負傷兵の救護にあたった。この壕は6月22日に米軍の攻撃を受け、翌日に部隊は全滅したという。

上里ファームポンド南側の雑木林の中。ファームポンド近くのカーブミラーより西へ約400m。道路沿い右側に案内板がある。

① 具志川城跡の トーチカ跡



喜屋武の南端の断崖上に形成された具志川城跡の真下。太平洋を臨むように海岸の岩穴にコンクリート製トーチカが構築されている。米軍の上陸に備え築かれた陣地と考えられる。潮風と波にさらされながら、側壁部分と床面の一部が、岸壁にへばり付くように辛うじて残っている。

具志川城跡は喜屋武集落より南へ約1.4km。集落内に城跡への誘導標識がある。城跡東側石垣の外側にある小さな道を下りていくと海岸に出られる。海に向かって右側、足下を鋭く突き刺すような岩場の先にトーチカ跡がある。

沖縄戦が終結して、今年で63年目の夏を迎えます。このコーナーでは、昨年の特集記事に引き続き、沖縄戦の記憶を伝えるいくつかの場所を紹介いたします。第2回の今回は住民が避難したガマや軍隊が構築した陣地などを中心に特集。これらの場所は私たちに何かを語りかけています。身近にある戦跡を実際に訪ね、それらの声に耳を傾けてみませんか。
昨年の6月号の特集記事は糸満市のホームページで確認できます。更に詳しい情報がお知りになりたい方は、『糸満市史 資料編7 戦時資料上巻』、『同下巻』(文化課で発売中)をお読みください。